



# 兵織技ニュース

## — 2026年 新年のご挨拶 —

所長 東山 幸央

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、清々しい新春をお迎えることと心よりお慶び申し上げます。平素より当センターの活動に対し、格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2025年は高市総理の誕生により、経済安全保障や国内産業基盤の強化を重視する政策姿勢が一段と鮮明になった一年でありました。国際的には中国との緊張状態が続き、原材料調達や生産拠点の海外依存リスクが改めて認識される中、我が国のものづくり産業において、原料調達のリスク分散と技術優位性の確立が重要な課題として浮かび上がりました。

繊維産業においては、リサイクル繊維やバイオベース素材の社会実装が進展し、使用済み繊維製品の回収・再資源化に向けた実証事業や産学官連携の取り組みが各地で報告されています。また環境配慮型染色加工技術や、水・エネルギー使用量の削減を目指した生産プロセスの高度化も着実に前進しています。加えて、トレーサビリティ確保や環境情報開示への対応が求められる中、デジタル技術を活用したサプライチェーン管理の重要性が一層高まりました。

一方、大阪・関西万博において開催された播州織のファッションショーは、産地の魅力と技術力を国内外に発信する象徴的な機会となりました。伝統に根差したテキスタイルが現代的な表現として披露され、播州織の知名度向上と新たなビジネス展開への期待を大きく高める成果を上げました。産地ブランドの確立と市場拡大に向けた重要な一歩であったと評価できます。産地PRにつきましても、センターとして積極的に支援して参ります。

当センターにおいても、2024年のホールゲーム編機の導入に続いてチーズ染色機の更新や織機の更新提案など、試作機能拡充に向けて取り組む所存です。

2026年を迎え、繊維産業は引き続き大きな転換期にあります。当センターといたしましても、研究・技術交流の促進、人材育成、情報発信を通じて、産地の皆様とともに新たな価値創出に取り組んでまいります。本年が、繊維産業のさらなる発展と、皆様にとって実り多き一年となりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

## ～ 令和7年度(2025年度) 主な活動トピックス ～

### ☆大阪・関西万博の播州織ファッションショーに協力（2025年5月26日）

大阪・関西万博会場で開催された「ひょうごワールドパビリオンフェスティバル2025」（5日間）の初日、県立西脇高校生活情報科の生徒が企画する播州織ファッションショーが実施されました。当日は、当支援センターが2024年に試織したLGBT関連の観光振興PRストール用生地をはじめとする播州織を用い、生徒自ら衣装をデザイン・縫製、日英ナレーション、同時手話解説まで担当して会場を大いに盛り上げました。



### ☆「ハートにくっと北播磨」楽市楽座に出展（2025年7月5日、12日）

大阪・関西万博期間中、尼崎市内（尼崎万博P&R駐車場隣接地）で開催された「ハートにくっと北播磨」楽市楽座（兵庫県主催）に出展しました。屋外テントブースで「足踏み手織機」による機織り体験を実施、炎天下にもかかわらず、のべ25組以上に機織り体験をしていただきました。特に小学生や織物に関心のある層には好評で、ものづくりへの関心の高さを再認識させられると同時に、播州織をアピールすることができました。



### ☆西脇・多可オープンファクトリー「もっぺん2025」（2025年9月26, 27日）

西脇市・多可町共催の「もっぺん2025」に参加しました。当支援センターでは、播州織の紹介→センター内施設見学→手織り実習（織物組織の解説）を実施（参加者：計9名）、市民の方をはじめ業界紙の記者、県内大学の講師・学生の皆さんに参加いただきました。

### ☆神戸ファッション専門学校との共同研究

神戸ファッション専門学校（神戸市）と共同研究（オリジナル播州織生地の開発）を実施しました。2025年9月、学生の皆さんが当支援センターに来所、生地の試織色合わせを実施、色系・ラメ系を組み合わせながら色調や表情など細かな内容を直接確認しました。配色決定後に試織を実施、それらの生地を使って学生が自らデザイン・縫製して、2026年1月31日の「ファッションフェア」にて卒業制作の発表会を開催しました。将来のアパレル人材に播州織の品質を体感してもらうと共に若年層へ播州織の認知度向上を図りました。



## 【機器紹介】

### 熱特性測定器（KES-F7 サーモラボⅡ型）

機器使用料：750円/時間、受講料：4,000円/人

#### 【メーカー】

カトーテック株式会社

#### 【機種名】

KES-F7 サーモラボⅡ型

#### 【性能・仕様】

温度検出器（T板）：3cm×3cm

貯熱板（5cmBT板）：5cm×5cm

貯熱板（10cmBT板）：10cm×10cm

最小温度表示：0.1℃ 使用上現温度：40℃

保温性測定用の風洞装置（最大1m/sec）有

試料寸法：18cm×18cm 試料厚み：2mm



#### 【用途】

生地等の接触冷感(q-max)、熱伝導率、保温性の測定が可能

#### 【対象試料】

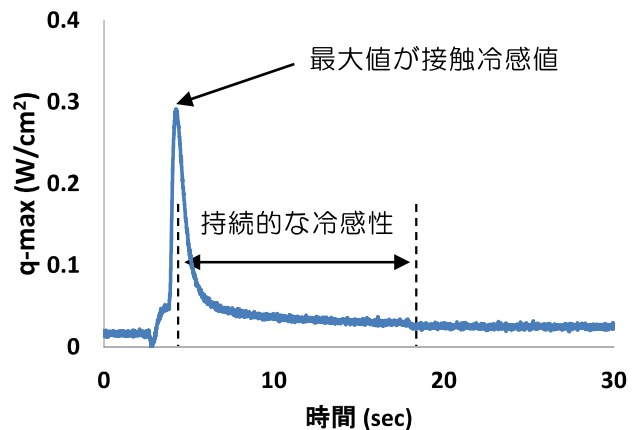
編物、織物、不織布の他、フィルムや革など様々な平面上試料の測定が可能

#### 【概要】

肌が生地に触れた時に、「温かい」「冷たい」と感じる皮膚感覚を、“接触冷感”とよびます。肌から生地への熱の移動量によって冷感の感じ方が異なり、それを評価する指標“q-max”（熱流量ピーク値）を測定する試験機です。また、一定の熱板から試料を介し、他の一定温度に保たれた熱板への熱の伝わりやすさを測定することで熱伝導率が分かります。さらに保温性の測定も行うことができ、試料がどの程度の保温性（熱を外気へ逃がさず保つ性能）を持っているかを評価することもできます。



綿織物の接触冷感評価



綿織物の接触冷感測定結果（例）

## 【今後のイベント】

### ☆織物感謝祭（播州織産地博覧会・播博）

【日程】 2026年5月31（日）、時間未定

【開催場所】 織殿神社（西脇市西脇757-1）

織物感謝祭は播州織の始まりに感謝し、播州織の一層の繁栄を祈願するお祭りです。西脇市をはじめ、近隣の市町から業界関係者、議会・行政機関の代表が出席し厳かに神事が執り行われます。当日は巫女さんに扮した産地組合の代表3名の奉仕者による「製織の儀」がひと際注目を集めます。当センターでは奉仕者への機織り指導を実施しています。

同日に行われる播州織産地博覧会（播博）も大盛況です。ぜひ、お越しください。



昨年の様子「製織の儀」

### ☆播州織入門（主催：北はりま職業訓練センター）

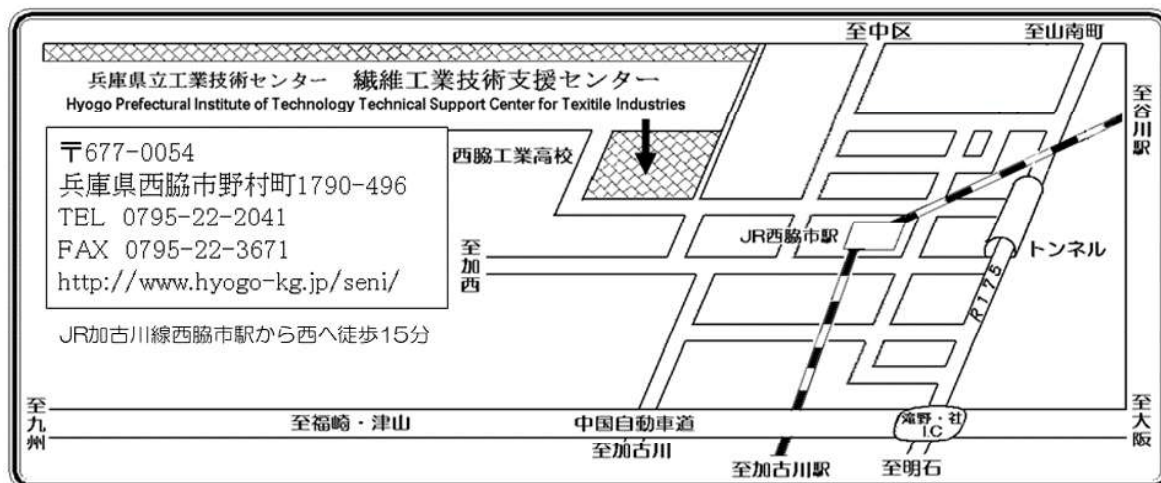
【日程】 2026年6月2（火）、4（木）、9（火）、11（木）  
（計4日間、12時間程度）

【開催場所】 北はりま職業訓練センター（西脇市平野町189-1）

播州織について、繊維素材や織物企画設計から染色、織布、仕上げ加工、品質評価に至る播州織の全工程の基本知識の習得を目指した講座が開催されます。

2026年度から6月開催となりました。新入社員の方やこれから学びたい方、または基本から学び直したい方に適した講座です。繊維総論として幅広く取り扱う講座は一般的には多くはないため、貴重な機会です。

内容、受講料、申し込み方法等の詳細については、北はりま職業訓練センターのホームページをご覧ください。（<http://www.kitakun.jp/>）



07産◎2-017A4